



令和5年2月10日

各 位

会社名 株式会社ハーバー研究所
代表者名 代表取締役社長 宮崎一成
(コード番号：4925)
問合せ先 取締役財務・経理部担当 梅蔭 武
(TEL. 03-5296-6250)

業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、令和4年5月11日に公表いたしました令和5年3月期（令和4年4月1日～令和5年3月31日）の業績予想を修正いたしましたのでお知らせいたします。なお、本業績予想の修正に伴う1株当たり年間配当予想40円の変更は予定しておりません。

記

1. 令和5年3月期の通期連結業績予想数値の修正（令和4年4月1日～令和5年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	14,100	160	190	130	34.37
今回修正予想（B）	12,010	△680	△650	△750	△198.33
増減額（B－A）	△2,090	△840	△840	△880	－
増減率（％）	△14.8	－	－	－	－
（参考）前期連結実績（令和4年3月期）	12,908	△316	△292	△269	△71.14

2. 修正の理由

当社グループは、令和5年3月期を初年度とする中期経営計画において、「持続的成長と企業価値向上に向けた収益基盤を構築するための期間」と位置付け活動を開始しました。その中で当期は、ロイヤルティ向上に向けて、オンラインとオフラインの双方で顧客接点をより充実させる取組みを強化しております。しかしながら、日本国内において新型コロナウイルス感染症による行動制限の緩和に伴い、経済活動が段階的に正常化へ向かい景気回復の兆しが見られたものの、新型コロナウイルス感染症（第7波及び第8波）の拡大、ウクライナ情勢の長期化に伴う資源、エネルギーの価格上昇及び円安の進行による物価高騰等の影響により国内市場の化粧品への消費回復が鈍化しており、この影響を受け、新規獲得数及び既存顧客の購入頻度の減少が想定以上となりました。また、海外市場においては、SNSやライブコマースを通じて認知度向上及び新たなファンの獲得と育成に向けた取組みを行って参りました。しかしながら、主要マーケットである中国にてゼロコロナ政策による厳格な移動制限等が解除され、現地での販売活動の回復が期待されたものの、その後の急激な感染症拡大等により厳しい環境が続いており、これによる影響が想定より大きなものとなりました。これらの結果、当初の業績予想から売上高及び利益が大幅に減少する見通しとなりました。

※上記の予想は、本資料の発表時現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、様々な要因によって予想数値と異なる結果となる場合があります。

以 上